



鳴神山（980m）は、群馬県桐生市の北に位置する桐生市を代表する山。地元では古くから信仰の山として崇められ、雷神（なるかみ）が住む山として親しまれています。

この山にしか生息しない“カッコソウ”が、いつもの5月上／中旬より早く、ほぼ満開の状態で見られたのは幸運でした。「雷神山を愛する会」がネットを張って、鹿などの被害から保護する活動には、頭の下がる思いがして、可憐な花に愛着を感じずる一時でもありました。

今回の参加者は21名（男性12名、女性9名）、90%越えはコロナ以前に戻った感じがして、久しぶり 中型バスでのゆったり気分の山旅でした。



カッコソウ

予定通り 6:00 に谷津船橋 IC 入路、高谷 JCT から

外環に入り、東北道・羽生 PA でトイレ休憩。7:30 出発。ローソン桐生堤町店で休憩後、吹上バス停に到着 (9:15)。清流に沿った自動車道を約 20 分、駒形登山口 (標高 430m) に到着。一般車の路駐が駐車スペースを埋め尽くし、人気の山であることを思い知らされました。駒形登山口で準備体操 (S さんの指導で) や登山装備の点検後、登山道へ。



登山道は、とても良く整備されていて歩き易く、植林杉の下地も綺麗に刈り取られ、木漏れ日の合間からは新緑の鮮やかな緑に、山ツツジのピンクが交じり、この上ない山の魅力を掻き立てるものでした。

10:40 に「中間点」を通過 (結果的にも 11:30 の頂上到達の中間時刻でした)。

11:00 (駒形登山口から約 1 時間) に休憩。特に疲労を訴える人も見受けられず、21 名が整然と列を成す、長蛇のパーティでした。

11:30 予定の行程より 20 分早く、鳴神山山頂に到達しました。

避難小屋の「なるかみ小舎」がある“肩の広場”からは、急に急坂・岩場となり、本格的な山岳の様相を見せ、一部にはロープも用意されていました。

頂上直下は、途も狭く、頂上が覗けた時には、攻略の達成感を感じずには十分な瞬間でした。頂上からの景観は、日光・男体山 (翌日が山開き) が思いの外近くに見え、目を左に転ざると、残雪の日光白根・武尊・谷川などのピークが並び、更に、妙義・赤城・浅間と並んだ先に、やや離れた位置に、まだ真っ白の富士のピークが何とか確認できました。360 度の景観は、この標高にしては、極めて印象深いものでした。



狭い頂上スペースで、何とか 21 名全員の記録写真を撮影し、それぞれ、空きスペースを

選んでの昼食タイムとなりました。頂上に、珍しく寒暖計がぶら下がっていて、13℃は適温に思いましたが、少々、風があり、体感温度は10℃位の感じでした。

12時に下山開始。30分程で「カッコソウ」の生息地を示す、緑ののぼりが立つ地点に下りました。案内に従って、見学一周コースを回りました。頂上で出会ったガイドさんを含め、3名ほどの「雷神山を愛する会」の方が絵葉書や、記念のワッペン・資料を並べて、質問にも丁寧に応えておられました。

「カッコソウ」は、ネットを張った中だけに生息していて、正に人手に守られた、“貴重な絶滅植物種”を印象付けられました。約30分の見学を終え、一路赤柴登山口に下山しました(13:30)。



14:30 吹上バス停に戻り、無事、鳴神山登山を完了しました。14:45 出発し、ローソンで寛ぎの休憩(15:00~15:20)の後、高速を順調に走り、17:55 谷津船橋ICを出路、約30分の早い帰着となりました。

(S.U.記)



ヒメイワカガミ



ヒイラギソウ



トウゴクミツバツツジ